

【V 考察】

「ボランティアの受入数」について

- 学習支援ボランティア
 - ・ 昨年度に比べて、全体的にやや減少している。しかしながら中学校において増加が見られた。今後も、各学校等の実態に即した計画を立てるとともに、ボランティアの積極的な活用に努める必要がある。
- 読書活動ボランティア
 - ・ 昨年度に比べて、減少している。中学校では、受入数が増加している。今後もボランティアの確保に努め、効果的な運用に努める必要がある。
- ノートテイクボランティア
 - ・ 昨年度に比べて、大幅に減少している。今後もボランティアの確保を進め、児童生徒にきめ細やかな支援ができるよう努める必要がある。
- 外国出身者支援ボランティア
 - ・ 昨年度に比べて、増加している。特に小学校で増加している。日本語を母国語としない児童生徒が増えていることから、今後も関係機関と連携を取りながらボランティアの拡充に努める必要がある。
- 家庭教育支援ボランティア
 - ・ 昨年度に比べて増加している。特に小学校で見られる。今後も、小中学校における家庭教育学級等への支援や、家庭教育支援者の活用の啓発に努めたい。
- 病院訪問学習支援ボランティア
 - ・ 昨年度に比べて、大きく減少しているものの、支援を必要とする児童生徒は大勢いることから、今後もボランティアの確保に努める必要がある。

「体験活動」について

- 小学校（特別支援学校小学部を含む）においては、実施回数も実施時間数も減少した。中学校（特別支援学校中学部を含む）においては、実施回数、実施時間数ともに増加した。高等学校（特別支援学校高等部を含む）においては、実施回数、実施時間数ともに増加した。
- 地域の身近な人材を外部講師として活用し、校外に積極的に出て自然体験活動や社会体験活動に取り組んでいる学校が多い。
- 講師との打合せの時間確保を課題としている学校も多いが、学校支援地域本部事業等を実施し、コーディネーターがいる地域においては、その連絡調整機能により、スムーズに体験学習等が行われている。
- いずれの学校種でも、キャリア教育の視点から体験活動を行う学校が増えている。特別支援学校においては、卒業生の就職先の事業所見学等を行い、勤労観等を育成するとともに、進路実現へ向けた取組となっている。

「ボランティア活動」について

- 小学校（特別支援学校小学部を含む）においては、実施回数は増加したが、実施時間数については減少した。中学校（特別支援学校中学部を含む）においては、実施回数はほぼ同じであったが、実施時間数は増加した。高等学校（特別支援学校高等部を含む）においては、実施回数は増加したが、実施時間数は減少した。
- 各学校の伝統的な活動としてボランティア活動を実施している学校も多い。伝統を受け継ぐとともに、毎年工夫を凝らした活動が行われている。
- 今後も、児童生徒の発達段階に応じた活動内容の工夫と、ボランティアの意義や目的についての理解を深めることが必要である。